

杉本真維子

投稿という行為はそもそも大変なエネルギーを要するものですが、それがある一定の期間、続けるということは、相当高いモチベーションと持久力が求められます。それらを下支えしているものは、おのののなかの詩の必然性です。この必然性が心に火を点け、無自覚にせよ、投稿者はその炎と孤独に向き合うことで、作品の原型となるものを生み出しています。でも、炎はそのままでは消えてしまうので、同時に極めて冷静なまなざしと手つきで燃料を集め、点検し、炎のなかにくべつづける、ということもしているのです。

この後者のおこないの一つが、推敲です。推敲がなければ作品に命を吹き込むことはできません。これをしてことによつて批評眼が鍛えられ、自作を少し離れた位置から眺め、よしあしを判断する力を養うことができるのだと思います。（ちなみに、月次投稿でたまに目にしますが、似たような作品が複数できたから全部投稿して選者に委ねる、というような他力では、なかなかよい作品は作れないと思います）

そして、これらの鍛錬の集大成にあたるものが、口語詩句賞や奨励賞応募のためにおこなう

10作の自選でしよう。自作を絞ることは容易なことではありませんが、苦しくとも手応えはあつたはずです。残念ながら受賞に至らなかつたとしても、自選という作業は決して無駄にはなりません。

こうした推敲への意識が、優れた作品からはうかがえるものだと思います。そういう方を推薦しました。おひとりにつき一篇ずつ、その方の特性が際立つていると思える作品を挙げます。

豊富瑞歩

梨を剥ぐ／あなたはいつも騙されて／騙されるとき目を閉じている

渡辺あみ

公式は知つているけど解けなくて／ファンタの泡がさんさん昇る

藤色

蟻が首元を通り過ぎた／光はあつち
まちりこ

ブランコを立ち漕ぎしたい／寂しさは揺らせば／消える
／そんな気がして

翠

命がないから／あんなに／からみあう ケーブル
さくらママ♪

貴方が着てきた幾何学模様の／ニットの中に／／私を好きという只一点を／探している

高橋ちひろ

霧雨と／分厚い直線の隙間から／そこだけ見える／托鉢の僧

ヒラノユリア

痛いの飛んだけと／泣いてる娘を抱きしめる／私の中には何もない

山本先生

迎春の／ちやちなフォークで食うパスタ

五味はこ

砂浜の／読んではならない部分を歩く

月次投稿で多くの佳作を獲得し、突出した才能をあらわしていた、さいうさんの応募がなかつたことは残念に思いました。もちろん、投稿の目的は賞への応募だけではないので、これから先の詩作を心から応援したいと思います。

受賞されたまちりこさんは、作者の自選と私が優れていると感じていた作品との多少の齟齬はありましたが、長期的に投稿される方はたくさんいても、まちりこさんのように一定のレベルを保つづける方はそれほど多くありません。並大抵のことではないと思います。そのほか、私が今回とくに注目した方は、豊富瑞歩さんです。自選の10作はどれも完成度が高く、

挙啓と書いて頭をあげるとき／あなたのようく動かない月天国の心あたりを聞くように／プールの底へ触れたゆびさき

など、漢字とひらがなの繊細な使い分けや透明感あふれる洗練された言葉運びにしばし陶然となりました。